

気候情報

2005年7月の日本の天候

日照時間少ない（北～西日本）、低温（北日本）

7月の天気概況

6月には日本の南海上にあることの多かった梅雨前線は、7月に入り北上して、日本付近に停滞することが多くなり、また、前線の活動も活発となって、東日本、西日本ではまとまった量の雨となった。さらに下旬には台風第7号が接近・上陸し、広範囲での渇水状況も、一部地域を除き解消された。中旬後半には、台風第5号が日本の南海上を西進したのにもない、太平洋高気圧が北に張り出し、西日本、東日本ではほぼ平年の時期に梅雨明けとなった。

北日本では、月前半のオホーツク海高気圧の影響や後半の台風第7号通過後の寒気渦の影響で低温となった。東日本、西日本では前半に平年を下回ったものの、月半ば以降、太平洋高気圧の張り出しが強まったことから、気温も高くなり、月平均気温は平年並となった。

南西諸島では太平洋高気圧におおわれることが多く、気温も高かったが、降水量は、台風第5号の影響のあった先島諸島では多かった一方、その他の地点では記録的に少なく、地域差が大きかった。

上旬：梅雨前線は日本付近で停滞し、また活動も活発となり、東・西日本中心に広い範囲で大雨となった。北日本ではオホーツク海高気圧の影響で気温も低くなった。南西諸島では高気圧におおわれ、晴れの日が続く、気温も高かった。旬平均気温は、北日本で低く、東日本、西日本では平年並、南西諸島は高かった。旬降水量は、北日本、東日本、西日本で多く、南西諸島では平年並であった。特に西日本ではかなり多かった。旬日照時間は、北日本、東日本、西日本で少なく、南西諸島で多かった。特に西日本ではかなり少なかった。

中旬：前線は一旦南下したが、西からの気圧の谷の接近にともない、日本海側に前線が停滞し、日本海側を中心に曇りや雨の日が多かった。その後、台風第5号が日本のはるか南海上を西進したことにともない日本付近で高気圧の勢力が強まり、前線も北上、東日本太平洋側から西日本にかけ梅雨明けとなり、気温も高くなった。南西諸島では、台風第5号が接近した先島地方では多雨・寡照、奄美地方、沖縄本島地方では少雨・多照と対照的な天候となった。旬平均気温は、北日本、南西諸島で平年並、東日本、西日本では高かった。旬降水量は、北日本、東日本太平洋側、西日本では少なく、東日本日本海側では平年並、南西諸島では多かった。旬日照時間は、西日本太平洋側で多く、南西諸島で少なかったほかは平年並であった。

下旬：西日本、南西諸島では高気圧におおわれ、晴れて、気温も高く推移したが、北日本を中心に東海上の寒冷渦の影響を受け気温が下がった。旬半ばに台風第7号が北上、26日には千葉県（房総半島）に上陸するなど、東日本太平洋側や北日本で大雨となった。月末には低気圧の通過にともない雨となった。南西諸島では高気圧におおわれることが多く、ほとんど降水がなかった。旬平均気温は、北日本で低く、東・西日本

では平年並、南西諸島では高かった。旬降水量は、北・東日本太平洋側では多く、北・東日本日本海側、西日本では平年並、南西諸島はかなり少なかった。旬日照時間は、北・東日本では少なく、西日本では平年並、南西諸島では多かった。

7月の気候統計

平均気温：月平均気温は、東日本と西日本では平年並だったが、北日本で低く、北海道から東北地方にかけての太平洋側では平年を1℃以上下回ったところがあった。一方、南西諸島では高かった。

降水量：月降水量は、北日本から東日本にかけての太平洋側と西日本で多かった。一方、北日本から東日本にかけての日本海側では平年並だった。

南西諸島ではかなり少ない地点とかなり多い地点があった。沖永良部（鹿児島県）、久米島、那覇、南大東島（以上、沖縄県）ではかなり少なく、7月の月降水量の最小値を更新した。特に、久米島では月降水量が0.0mmだった。一方、与那国島（沖縄県）ではかなり多く、7月の月降水量の最大値を更新した。

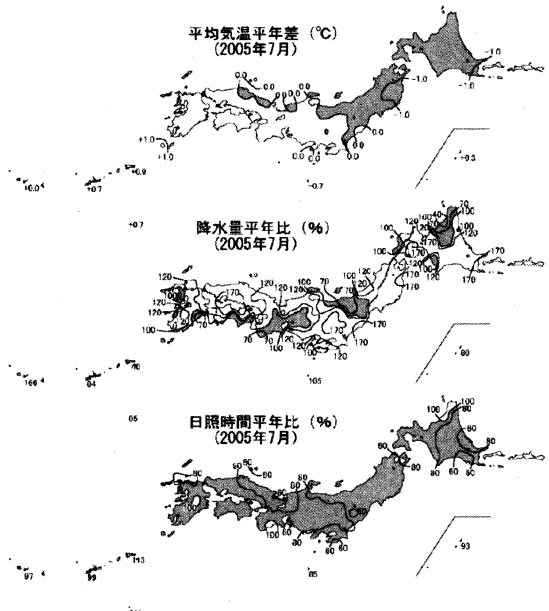
日照時間：月間日照時間は、南西諸島では平年並だったが、北日本ではかなり少なく、東日本と西日本では少なかった。北日本の多くの地点と、東日本から西日本の所々で平年の80%未満になった。

（気象庁観測部統計室）

7月の記録（1位更新のみ）

- ・月降水量の多い方から（mm）
与那国島 437.0
- ・月降水量の少ない方から（mm）
久米島 0.0 那覇 6.5 沖永良部 2.0
南大東島 7.0

2005年7月の平年差（比）図



注) 陰影の部分は、平年より低い(少ない)地域を示す。